

身近な野鳥たち

52期生

I テーマ設定の理由

野山に住む鳥たちだけでなく、街中でよく見かける鳥たちも「野鳥」である。そのような身近な野鳥たちがどのように暮らしているのか少しでも知りたいと思ったし、本格的なバードウォッチングへの第一歩にもなると思ったのでこのテーマにした。

II 研究方法

(1) 文献調査 調査の対象にする鳥たちの習性がわかる資料を集める。

(2) 観察

①鳥たちの1日の行動記録(どの種類の鳥が、何をしていたか)

…いくつかの場所にとどまって、観察したことを記録。とどまるのは10分～1時間程度で、朝、昼、夕と異なった時間帯に行なう。

②特定の種類の鳥の行動

…地上のドバトの群れを対象に観察した。

III 研究内容

1. どの種類の鳥が見られたか

主に見られたのは、スズメ、キジバト、ツバメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ドバトである。全観察回数44回のうち、何回見られたか、主に何をしていたかということも一緒に表にした。(表1)ただし、観察回数は1つの場所につき1回とカウントしている。また、どうしても種類がわからない鳥が見えたのはそのうち3回ある。声しか聞こえず姿が見えなかったものはカウントしていない。

※それぞれの種類の見分け方

スズメ…鳴き声は「チュンツチュンッ」という声の基本。ただし30種類以上の鳴き方をするという報告もある。(表2)

模様でも区別できる。色は茶色が基本で、頭の茶色と頬の黒いホクロはスズメの大きな特長である。

キジバト…「デデーポポー」という鳴き声ですぐわかる。首のわきの小さな斑点と、翼の大きなうろこ模様でもわかる。ドバトとの区別は、模様だけでなく飛び方でもできる。ドバトは、普通にバタバタとはばたく飛び方。それに対してキジバトはパッパッと、ひとつひとつのはばたきごとにリズムがある。

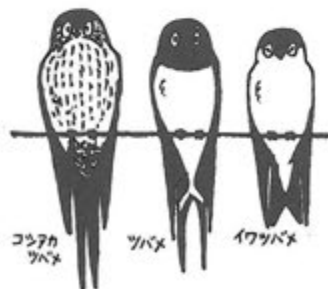
ハシブトガラスとハシボソガラス…表1からわかるように、ハシブトガラスは太いくちばしに出っ張った額が特長。それに対してハシボソガラスは、くちばしは細く、額の出っ張りはない。

ドバト…灰色が基調で、翼に2本の黒い帯があるものが多い。

▼表1 観察の結果

種類	スズメ	キジバト	ツバメ
回数(回)	17 / 44	11 / 44	3 / 44
観察できた行動	羽づくろい 地鳴き 砂浴び 数羽で一緒に行動	羽づくろい 地上の畑や草むらにてエサ探しや果の材料集め 単独かつがいで行動	羽づくろい 1時間以上数羽で電線にとまっている。 スズメと一緒に
種類	ハシブトガラス	ハシボソガラス	ドバト
回数(回)	6 / 44	2 / 44	2 / 44
観察できた行動	畑やゴミ捨て場でエサ探し。つがいや単独で行動 電柱に止まって辺りを見回す。	畑でエサ探し。 ハシブトガラスと一緒にいることもあり。つがいや単独で行動。	地上でエサ探し。 群れていることが多い。 単独でいるのも一度だけ見かけた。

ツバメ…基本的にはスズメくらいの大きさで、翼が細めでスマート。ツバメは額とのどが赤いが、コシアカツバメは腰に赤味を帯びている。またイワツバメは小型で赤い部分はあまりない。(図1)



▲図1 ツバメの形

▼表2 スズメの鳴き方

スズメの声のいろいろ。				
	地鳴き	チュン、チュン チュイ、チュイ、 チュイ。	威嚇	チュン、チュン ヒ息調子
	さえずり	チュン、チュン、チュン、チュン チュン、チュン、チュン、チュン チュン、チュン、チュン、チュン チュン、チュン、チュン、チュン	怒り	ジュウ
	警戒	チーエ、チーエ。	危険	ジュウ、ジュウ、ツウク、 ヒランポム早い声
	よここ	チュン、チュン、 を繰り返す	ヒナ	ツリ、ツリ、ツリ……

2. 習性について

表1からわかるように、羽づくろいや、スズメなどの砂浴びは、よく見られる行動である。また単独で行動しているか、群れやつがいで行動しているかどうかは種類によって違っていた。さらに食べ物の違いや、警戒心の強さなどによって、エサを探す方法もそれぞれ違っていた。ここでは、そのような種類による習性の違いやよく見られた行動の意味などについて書いた。

(1) 水浴びと砂浴びについて

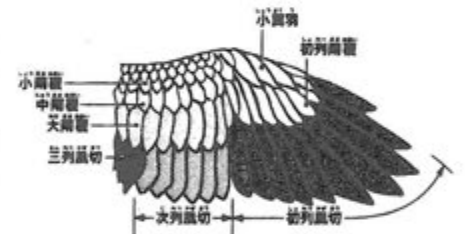
身近な野鳥、スズメは水浴びと共に砂浴びもする変わった種類だ。雨上がり、道路のくぼみにできた水たまりで水浴びする姿がよく見られる。だが残念なことに、夏休み中に雨の降った日はあまりなかったので、観察はできなかった。その代わりに、祖母の家にある畑で砂浴びしている様子は何回も見ることができた。砂浴び後の地面は、ポコンとあいた蟻地獄のような形になる。(写真1)

スズメと違い、多くの種類の鳥は水浴びのみを行なう。水浴びしないものは、砂浴びを行なうのだが、これはキジ類やヒバリなどである。

このような行為は、羽についている汚れや、ダニ、ノミ、ハジラミを落とすためである。鳥類の羽毛は非常に複雑で微細な構造であるため、とても汚れやすい。羽毛の中でも、空を飛ぶために最も大切なのが風切羽(図2)なのだが、これを汚れたままにしておくと、しまいに飛ぶことができなくなり、エサを探すどころか天敵から逃げるすべまで失ってしまう。そのため、毎日休むことなく行われるのだ。

(2) 羽づくろいについて

一番よく観察できたこの行動は、水浴び、砂浴びで乱れてしまった羽毛をなおすために行なわれる。これも大切な作業である。細かい羽毛はマジックテープのような構造で互いにつながっているが、これが乱れるとくちばしで一枚一枚しごいてなおしていくのである。



▲図2 羽の構造

(3) 警戒心の強い鳥、弱い鳥

見た中で最も警戒心がないのは、やはりドバト。人に慣れきっている。次にないのがツバメ。地面に降り立った所は見なかったが、とまっている電線の下に行ってもほとんど逃げなかった。次はキジバトだろう。キジバトは地面を歩きながらエサを探し、一度食べ始めるとあまり周囲に関心を払わない、という習性があるせいか、私が見た時もすぐ近くに行くまでなかなか気付かなかった。次はスズメ。地上にいるときは姿を見せただけで逃げられた。木の上にいる時でも逃げることもある。最後に、一番警戒しているのはカラスだった。観察する素振りを見せただけで逃げた。

(4) 好む環境とエサ

スズメ…一般的に言うと、人家の周辺でよく見られる。だが車がひっきりなしに通るような大通りではなく、静かで畑や林、田んぼのある住宅地に多かった。スズメは、人の住む所にしか住まない。人の住まなくなったさびれた所では、いつのまにかスズメもいなくなるという。東京の都心部も、昼間は人が多いが、夜になると無人地帯になってしまうので、かえってスズメは少ないようだ。また、食べ物は主に穀物。収穫前の米のほか、まいた米や御飯、イネ科の雑草の実、それに木の実を食べているのも見られた。祖母の家ではよく御飯や米をまいているが、人間の姿が見えなくなるとすぐにやってきて、ついばんでいた。バードテーブル(鳥のエサ台)を初めて作る時はこのようにまずスズメにさせると良い。臆病なスズメでも来ているということで、他の野鳥もやって来るようになる。

ツバメ…繁殖期は人家の周辺。ただし、子育てが終わると都市からは姿を消すが、すぐに渡りをする訳ではない。秋まで海岸や、河川、湖沼の湿地帯で生活し、夕方アシ原に集まって来て数百～数千羽の群れをなして過ごしている。時には数万羽に達することも。しかし、近年アシ原が埋め立てなどで減少しているのにもない、ツバメの数も減ってきている。彼らの食べ物は昆虫。羽アリも食べる。空中で飛んでいる虫を捕まえるのだ。

キジバト…町や森、林にいる。草の種子や木の実など、植物質のものだけを食べる。草の実などは、地上を歩きながら探し、周りに注意を払わないのでよくネコに狙われる。キジバトと、同じ種類のドバトは他のものと違って繁殖期が決まっていない。私も地上で枯枝などの巣材を集めるキジバトを見たが、人家の方に飛んで行ったので、庭先の木などに巣をつくっているのだろう。巣自体は、小枝を集めただけで粗雑である。キジバトとドバトとの大きな違いは、キジバトは単独かつがいでいることが多いが、ドバトは群れていることが多いということである。

ハシブトガラスとハシボソガラス…この2羽は、姿だけでなく住む場所や食べ物の違いでも区別できる。ハシブトガラス(以下、ブト)は、都会に住むことが多く、雑食性ではあるが肉を好んで食べる。エサを見つけると安全な所まで運んで食べる。それに対してハシボソガラス(以下、ボソ)は、農耕地や河川敷など開けた場所に住み、歩きながらエサを探ることが多く、見つけるとその場で食べてしまう。ブトとボソのエサの探し方の違いは歩き方にも表れている。何かにとまることの多いブトは、地面では両足をそろえてチョンチョンと進む。(ホッピングという。)そして歩くことの多いボソは右足、左足と交互に出して進む。(ウォーキングという。)

ちなみに、ホッピングをするものには、スズメやモズなどがある。また、ウォーキングをするものにはキジ、ハト類、カモ類などがある。

3. 鳥の1日の行動(8月)

観察記録を、時間ごとにまとめてみた。(表3)

▼表3 時間ごとの観察記録

時間	観察されたこと
午前6時以降	この頃からスズメの鳴き声は聞こえていた。
6時～7時	スズメやキジバト、ハシブトガラス、ハシボソガラスの音が聞こえる。電線にとまったり、飛んでいく姿も見える。畑にはスズメが来てエサを探している。
7時～8時	スズメぐらいの大きさの鳥の群れが上空を飛んで行く。30羽近くはいると思われた。決まって7:10～7:20の間であった。また方向も同じだった。
ねぐらからの移動 1日を過ごす準備	電線の上にスズメ。鳴いたり、羽づくろいをしている。数羽が一緒。
8時～10時	電線の上にスズメやキジバト。とまっている場所が決まっている。カラスはスズメなどとは違い、電線にとまってもすぐに飛んでいく。
10時～12時	電線の上にもいるが、エサ探しで飛びまわっていることが多い。スズメが数羽ですっととまっていることは少ない。(キジバトはもとより単独である。)エサにありつけそうな場所は、各個体がそれぞれ知っているようだ。その証拠に、しょっちゅう米をまく祖母の畑には、すぐにスズメが来る。ただし暑い日はすぐいなくなった。
12時	8月下旬、巣作り、子育てを終えたツバメが1時間以上電線にとまっていた。2、3羽でいることが多い。近くにスズメがとまることもある。ただし暑い日はすぐいなくなった。
午後1時～4時	くもりの日では、3時頃でもとまっているツバメを見た。だが暑い日では、野鳥の姿を見ることは少ない。鳴き声も朝ほどには聞こえず、木々の間にいるようだ。ハシブトガラスがエサをくわえて林の中に入っていくのを見た。暑さを避けているように思われた。また一般に野鳥が水浴び、砂浴びするのはこの時であり、砂浴びするスズメを何度も見た。
4時～5時	日差しが少し穏やかになった頃、キジバトが電線にとまっていた。カラスが飛んで行くのも見られるようになった。人通りのあまりない、農園の裏の木に、スズメが10羽～20羽いた。並んで植えられていたものにとまっていたようだ。電線の上にいるときと違い、こちらの姿を見るとすぐ飛んで行った。
5時～7時半	明るいうち、涼しくなると、畑に3～5羽のスズメが来ていた。エサを探し始めたようだ。日が没んでほぼ暗がりになった後でもスズメが飛んでいた。

- 一般に、野鳥は早起きと言われるが、どの鳥も日の出前から活動し始めるようだ。
- 群れは朝、夕、毎日決まった時間に同じ方向に向かって移動することが知られている。ねぐらからエサ場への移動だと思われる。

IV 感想

とても時間がかかった。相手が逃げてしまうので、追いかける訳にもいかなかった。
それでも、スズメやキジバトなどどこにでもいると思われている鳥たちにもおもしろい
習性があるとわかって良かった。

V 参考文献

松田道生 『カラス、なぜ襲う -都市に棲む野生-』 河出書房新社 2000年
唐沢孝一 『都市鳥ウォッチング -平凡な鳥の非凡な生活-』 講談社 1992年
小林 詩 『アウトドア・クラブ バードウォッチング』 誠文堂新光社 1998年
(財)日本野鳥の会 『今日からはじめるバードウォッチング』 1993年